

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪市立晴明丘小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒545-0032

大阪市阿倍野区晴明通 10-34

E-mail e196105a@ocec.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 647 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、研究主題を「ちがいを認め合い、豊かな人間関係を育む力の育成」とし、新学習指導要領と ESD との関連をおさえ、持続可能な社会の創り手になることができる児童の育成を目指した。どの取り組みにおいても、ユネスコスクールの 4 つの基本分野を含め、それらを柱として活動を進めている。

1. 地球規模の問題に関する SDGs の理解
2. EDS（持続可能な開発のための教育）
3. 平和、人権の理解と促進
4. 異文化理解

(1) ESDパスポート

ESDの活動を記録していく手帳であり、4年生以上の児童が一人一冊個人持ちで使用している。具体的な内容は、校外学習での清掃活動、平和学習の伝達、ユニクロ子供服プロジェクトへの参加、募金活動、地域の清掃活動、福祉施設への訪問、書き損じ葉書回収運動などである。30分ごとに活動数をカウントする「ボラン」がたまり、30ボランを獲得することができればユネスコ協会からの認定を受けることができる。

(2) 姉妹都市との連携

北京市中関村第一小学校、中国人民大学附属中学校が4年連続で本校に来校し、中国の様々な文化にふれることができた。日本の文化を再認識することにもつながっている。

(3) 大阪ユネスコネットワークネットワーク (ASPnet) への参加

大阪を中心とした関西のユネスコスクールとつながりを積極的にもち、中国や韓国の教育使節団(児童生徒を含む)を迎えるための準備や当日の取り組みの内容を具体的に話し合ってきた。また、地震などの災害で苦しむ地域を支援するための活動について考ええるワークショップを行い、意見を交流し活動した。

(4) 外国語活動の充実

全学年、朝の15分のモジュール授業で英語に慣れ親しんできた。高学年はネイティブの指導者が外国語活動の授業を行うこともある。

(5) 国際理解教育の研究推進

今年度は「平和と人権」をテーマに全学年研究授業をおこなってきた。

(6) ソーシャルスキルトレーニング

対人関係や集団行動などをうまく営んでいけるような社会的なスキルを磨くための取り組み。最終的には子どもたちの自尊感情を高めることを大きな目標にしている。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では研究領域を国際理解教育に設定し、各学年が年に一回の研究授業を行っている。国際理解教育の根底にある ESD の考え方の中で、今年度は特に「平和と人権」に焦点を当て研究を進めてきた。授業の数週間前には、当該学年とペア学年、また研究部で指導案検討会を行い、子どもたちが実際に主体的に行動できることを目指して指導方法を練り上げてきた。授業後は全体で討議会をもち、よりよい授業の在り方について検討を重ねてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

研究領域を国際理解教育に設定していることで、どの学年も国際理解教育（とりわけ「平和と人権」がテーマ）に継続的に取り組んでいる。また、本校独自で「ESD カレンダー」を作成し、年間を通じて見通しをもって ESD に関わる取り組みを積極的に進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

実際に活動する子どもたちの感想や反省をもとに子どもの変容を成果として捉え記録している。また、教師主導の取り組みではなく子どもたちが主体的に活動に取り組めたかどうかも評価の材料にしている。本校では、ユネスコ委員会の児童だけでなく全校児童が ESD の活動に取り組んでいることが一つの大きな特徴といえるが、一方で、取り組みが単発になりがちで一つ一つの活動が全て ESD の考え方を基に繋がっているという意識を持たせるのが課題であると言える。また、子どもたちの意見やアイデアで活動をコーディネートしていくことも今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度は、阿倍野区的全職員が参加する教員研究発表会で、本校のユネスコスクールとしての取り組みの発表を行った。研究領域としての国際理解教育の取り組みの発表だけにとどまらず、ESD パスポートやSDGsに関わる取り組みについても発表を行った。参加者からは、これらの内容はユネスコスクール以外の学校にとっても大切な取り組みばかりであるという声が聞かれた。また、行政や他地域からも問い合わせを受けるなど、発表の反響は思いの外大きく、今後も丁寧に取り組みの内容を伝えて広めていく必要があると感じている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユニクロと協働して世界の難民の子供たちに服を届ける「子供服プロジェクト」を毎年年に2回定期的に行っており、次年度も現在活動申請中である。また、本校は地域学習の素材に恵まれた場所に位置し、地元のお寺や名所などの地域巡りを毎年行っている。学校と地域が一体になって歴史と伝統を次世代に受け継ぐための取り組みを進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

大阪ユネスコネットワークネットワーク(ASPnet)の活動に積極的に参加し、その中でも本校は唯一の小中学校代表として中核的な役割を担っている。準備セミナーに何度も参加し、他のユネスコスクールの生徒との交流を深め、中国や韓国からの使節団を受け入れて国外のユネスコスクールとも活動を共にしてきた。そこで学んだことを校内にも伝え広げる活動も積極的に行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校がユネスコスクールに認定されて3年目になるが、ユネスコスクールとしての活動に継続的に取り組んでいることで、児童が国際的な視点をもって物事を広く捉え考えられるようになってきたと感じている。中国や韓国の使節団の来校はもちろん、世界の恵まれない難民の子供たちに服を届ける活動では、世界を知ること自分たち自身のことを見つめ直すことにもつながっている。本校では、ユネスコ委員会のスローガンを＝「みんなが気持ちよく！次の人も気持ちよく！」として、自分たちができる身近なことから世界に繋がっていくという視点が育ってきていると感じる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ユネスコ委員会の発足
- ・ユネスコ委員会のスローガンの発表
- ・4年生の全児童へのESDパスポートの配布（5,6年生は継続）
- ・校外学習での清掃活動
- ・ユニクロ子供服プロジェクトの推進と準備（年2回）
- ・出前授業と子供服プロジェクトの実施（実施は年2回）
- ・ユネスコ委員会と学級代表によるあいさつ週間（各学期）
- ・校内チェック習慣と自己評価アンケートの実施（各学期）
- ・大阪ユネスコネットワークネットワーク（ASPnet）の活動への参加
- ・中韓などの国外のユネスコスクールの使節団来校の準備と歓迎セレモニーの実施
- ・ユニセフや赤い羽根などの募金活動
- ・地域のコンサートや祭りへの積極的な参加
- ・書き損じ葉書回収運動を通じた世界寺子屋運動への積極的な参加